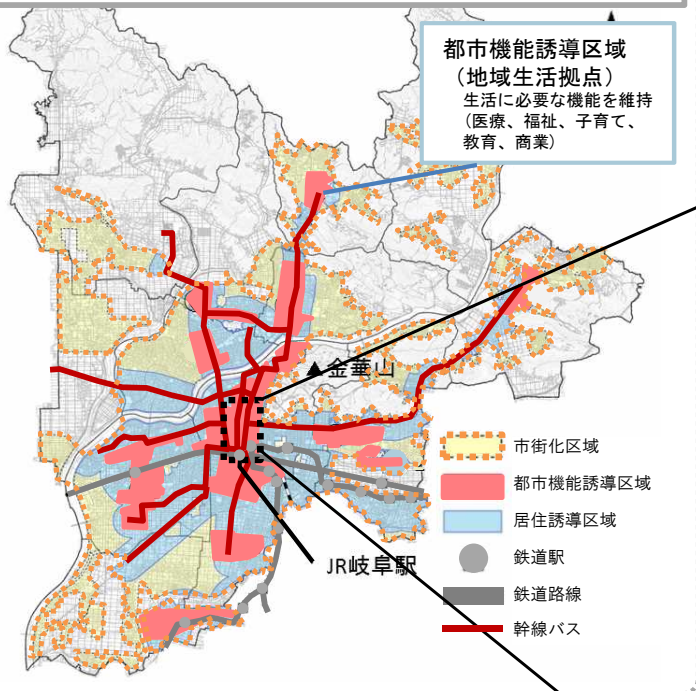


居住

幹線バス路線沿線への居住誘導

公共交通の便利な地域を居住誘導区域に設定
(市街化区域の57%)

(郊外団地は生活環境を維持しつつ誘導区域に含めない)



居住誘導区域へ3.3万人誘導(区域外人口の約2.0%)

居住誘導区域の人口密度を維持
51.2人/ha(H27)→51.2人/ha(R17)

まちなかへの居住誘導

- まちなか2地域の5プロジェクトで約1100戸供給(予定含む)。更に4プロジェクトも検討中。
- まちなか居住を支援
 (新築・購入:40万円~最大80万円/戸)

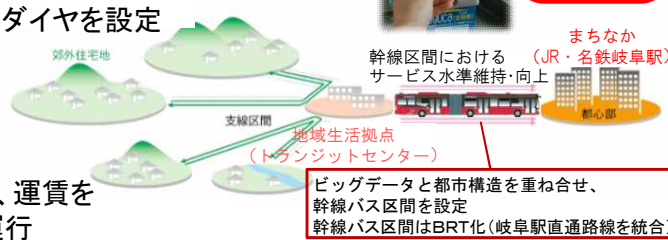


歩いて暮らせる
 まちなか居住者の
 増加

交通

ビッグデータや地域住民の意見を反映させた、
 生産性の高い持続可能な地域公共交通の再構築

- ビッグデータで乗車率の高いダイヤを設定
- 乗継拠点の整備と併せて路線分割を行い、幹線と支線を役割分担(岐阜駅のハブ化も実施)
- 地域住民が、ルート、ダイヤ、運賃を決定するコミュニティバスを運行



バス会社
 の協力により
 ICカード導入、
 ビッグデータ取得

ビッグデータと都市構造を重ね合せ、
 幹線バス区間を設定
 幹線バス区間はBRT化(岐阜駅直通路線を統合)

沿線人口の増加により
 バス利用者増加

バスの利便性向上により
 沿線人口増加

岐阜市柳ヶ瀬健康
 ステーション(健康
 チェック、健康づくり教室、
 健康相談等)

健康・運動施設

福祉・医療等施設
 (3Fフロア)

都市部の
 回遊性向上
 歩行者空間
 の確保

福祉施設
 (特養等)

まちなかへのバス+徒歩の
 アクセシビリティ向上

バス年間利用者数

	万人	5年増減
H12	2,390	
H17	1,780	▲610 -26%
H22	1,800	+20 +1%
H27	1,730	▲70 -4%
R2	1,900	+170 +10% <目標>

全国平均:
 2%減
 (H17→H25)

バス利用者増・運行の効率化
 により乗車効率約2割向上

健康

まちなかへ出かける仕掛けづくり

- 市街地再開発と合わせて、まちなかに健康・運動施設を整備
- 中心市街地空き店舗を活用した健康ステーション
- 歩車分離、ウォーキングコースの案内、トイレ整備・ウォーキングMAP作成
- 住民参加型の健康づくり運動(各地域で実施)

自治会の協力でウォーキング
 イベント実施

成人に占める8000歩/日歩く人の割合が増加

26.7%(H28)→**50%(R3)**※2
 全国平均=32.4% ※3
※2 第三なぎふ市民健康基本計画より引用
 ※3 20歳以上の岐阜市民7.9万人(歩行数4000歩以上~8000歩未満)が8000歩、歩くよう(歩行数平均1300歩増加)になれば達成

医療費抑制 ※1
約27億円/年

※1 岐阜市の設定する各計画の目標が達成された場合を仮定して国土交通省試算 ※2 国民健康・栄養調査(2008~13年、2012除く)から国土交通省算出